

< 言語聴覚学科 > 入学試験問題

英 語 ・ 国 語

試 験 時 間 90分

(注意)

- 1 試験官の指示があるまで、問題用紙及び解答用紙に触れないでください。
- 2 英語の問題は1頁～9頁、国語の問題は11頁～25頁に印刷されています。
- 3 解答用紙に氏名、受験番号及び受験科目名を記入してください。
- 4 解答方法は次のとおりです。
例 [1] 埼玉県のある市庁所在地として正しいものを1つ選び、記号で答えなさい。

1

①前橋市 ②甲府市 ③さいたま市 ④横浜市 ⑤千葉市
この[1]の正答は「③さいたま市」ですから、解答用紙の解答番号1の横に並んでいるマーク欄の中の「③」を、鉛筆またはシャープペンシルで「●」のように塗りつぶしてください。
- 5 机の上に鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、時計（辞書・計算・通信機能のついていないものに限る）、受験票以外は置かないでください。
- 6 受験票は番号札の手前に置いてください。
- 7 常時マスクを着用してください。ただし、本人確認の際に、試験官の指示によりマスクを外していただくことがあります。
- 8 ハンカチ、ティッシュペーパーを使用する者は、静かに挙手をして、試験官の指示に従ってください。
- 9 試験中に気分が悪くなったり、トイレへ行きたくなった者は、静かに挙手をして、試験官の指示に従ってください。
- 10 試験問題に関する質問は一切受け付けません。
- 11 途中で退出する者は、解答用紙を机の上に置き、静かに挙手をして、試験官の指示に従って退出してください。ただし、試験開始後30分間及び試験終了前10分間の退出は認められません。
- 12 試験終了後、試験問題は持ち帰って結構です。

第1問 英文中の空欄[1]～[6]を埋める語句として最も適するものを、それぞれ①～⑤より1つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) What [1] hunger and cold, I felt myself miserable.

- ① at ② by ③ with ④ from ⑤ about

(2) You should know that bad books [2] us harm.

- ① do ② make ③ damage ④ attack ⑤ get

(3) She spends [3] her free time using her smartphone.

- ① most ② much ③ most of
④ almost of ⑤ almost about

(4) She would have attended [4] she been invited.

- ① as ② if ③ but ④ had ⑤ for

(5) I will give these clothes [5] wants them.

- ① which ② who ③ whose
④ to whom ⑤ to whoever

(6) It was not long [6] the tower came into sight.

- ① until ② before ③ when ④ while ⑤ by

第2問 次の英文を読んで、以下のA・Bの問いに答えなさい。 7 ~ 12
(本文中の*印の語は、(注)を参照すること。)

この文章は、著作権上の都合により公開できません

(“‘High-Value Guests’ May be Key to Sustainable Tourism” by The Japan News)

(注) sluggish : 緩慢な big spender : 気前よく金を使う人
resilient : 弾力的な nurture : 育成する revitalize : 活性化する

A 英文中の空欄 ~ に当てはまる語句として、最も適切なものはどれか。

①~⑤から1つ選び、記号で答えなさい。

(1)

- ① worst
- ② much
- ③ strong
- ④ lower
- ⑤ right

(2)

- ① word
- ② clue
- ③ goal
- ④ worry
- ⑤ proof

(3)

- ① Although
- ② However
- ③ By the way
- ④ Since
- ⑤ As well as

(4)

- ① difficult
- ② natural
- ③ possible
- ④ essential
- ⑤ responsible

B 本文で抜けている以下の節が入る場所として、最も適切なものはどれか。①～④から1つ選び、記号で答えなさい。

, which is a significant impact

- ①
- ②
- ③
- ④

C 次の内、英文の内容と合致しないものを、①～⑤から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 2024年の訪日観光客による消費額は、それまでの過去最高額を記録した。
- ② 高付加価値旅行者は、オーストラリアや中国など全部で6か国から来ている。
- ③ 高付加価値旅行者の旅行目的を分析することが、現在の課題の対策につながる。
- ④ 飲食や宿泊、文化体験などで日本独自の観光サービスを充実させるべきである。
- ⑤ 買い物以外の消費行動を促進することで、為替変動に動じない強い消費となる。

(次のページに続きます)

第3問 次の英文を読んで、以下のA・Bの問いに答えなさい。
(本文中の*印の語(句)は、(注)を参照すること。)

13 ~ 20

この文章は、著作権上の都合により公開できません

(“The Obesity Crisis” by Kay Hetherly)

(注) stereotype : 固定観念	overweight : 過体重の (BMI 25 以上)
obesity : 肥満 (BMI 30 以上)	obese : 肥満の
seasoning : 調味料	broil : (天火で) 炙る
tossed salad : トスサラダ (ドレッシングを和えて混ぜ合わせた野菜サラダ)	

[備考] 上記の「過体重」及び「肥満」の定義は WHO によるものであり、本文の記述もそれに従う。なお、日本では BMI 25 以上を肥満としている。

A 本文下線部(1)～(5)の文脈上の意味として,最も適切なものはどれか.それぞれ①～④より1つずつ選び,記号で答えなさい.ただし文中の動詞は原形に,名詞は単数形にしている.

(1) contribute

- ① give money to achieve something
- ② help to make something happen
- ③ write article for magazine
- ④ support to increase something

(2) talk

- ① conversation
- ② speech
- ③ discussion
- ④ language

(3) habit

- ① taste
- ② custom
- ③ cooking
- ④ vice

(4) sum up

- ① say something in different a word
- ② total up everything
- ③ show the most typical characteristics
- ④ lead to a conclusion

(5) challenge

- ① a difficult task that we should tackle
- ② an obstacle that gets in the way of our life
- ③ a competition to be better than others
- ④ a hard problem that we enjoy solving

B 次の(1)~(3)の各問いに答えなさい。

- (1) 次の I, II の英文に関して、本文の内容と照らして正しいものには○, 間違っているものには×を付した場合の組み合わせとして適当なものを, ①~④から1つ選び, 記号で答えなさい。 18

- I The author thinks a person's weight is a private matter.
II The author agrees that a lot of Americans are fat.

- ① I ○ II ○
② I ○ II ×
③ I × II ○
④ I × II ×

- (2) 次の I, II の英文に関して、本文の内容と照らして正しいものには○, 間違っているものには×を付した場合の組み合わせとして適当なものを, ①~④から1つ選び, 記号で答えなさい。 19

- I There may be fewer people for "fat tax" than ones against it.
II The author thinks "fat tax" is very effective.

- ① I ○ II ○
② I ○ II ×
③ I × II ○
④ I × II ×

- (3) 次の I, II の英文に関して、本文の内容と照らして正しいものには○, 間違っているものには×を付した場合の組み合わせとして適当なものを, ①~④から1つ選び, 記号で答えなさい。 20

- I The author thinks that there is a large problem in the seasonings for traditional American food.
II The author thinks that many Americans may lose weight when they live in Japan for a few years.

①	I	○	II	○
②	I	○	II	×
③	I	×	II	○
④	I	×	II	×

(国語の問題は次のページから始まります)

第1問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

21

〜

32

この文章は、著作権上の都合により公開できません。

(出典：宮内泰介・上田昌文著『実践 自分で調べる技術』岩波新書)

※前の章：本文の直前の章では、図書館やインターネットなどを利用して適切な文献や資料を探する方法について説明している。

問1 本文中〈a〉〈b〉〈c〉の傍線部に該当する漢字を含む熟語として正しいものを、①～⑤よりそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

21

23

〈a〉 21

- ① 手続きがハンザツすぎる
- ② 政策を鋭くヒハンする
- ③ 熱帯植物がハンモする
- ④ 可能なハンイで協力する

〈b〉 22

- ① 実社会にサンカクする
- ② 問題をテキカクに処理する
- ③ 新商品をハンロに乗せる
- ④ 業界にカクメイを起こす

〈c〉 23

- ① 対策についてギロンする
- ② 国際紛争のギセイになる
- ③ 人としてのレイギを守る
- ④ 新しいギジュツを導入する
- ⑤ 相手に対してギリを欠く

問2 本文中の空欄 24・25 に該当する語句として最も適切なものを、①～⑤よりそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

24

25

24

- ① だから
- ② そして
- ③ しかし
- ④ やはり
- ⑤ つまり

25

- ① たとえば
- ② なぜなら
- ③ あるいは
- ④ ところで
- ⑤ したがって

問3 本文中の傍線部(1)「ほとんどが思い込み」といえる理由として最も適切なものを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 26

- ① 私たちのもつ「常識」は、現実の一部しか反映していないものであるから。
- ② 私たちのもつ「常識」は、しばしば迷信や誤りを含んでいるものであるから。
- ③ 私たちのもつ「常識」は、権威ある人から得た情報である場合が多いから。
- ④ 私たちのもつ「常識」は、無自覚なまま他人から影響されたものであるから。
- ⑤ 私たちのもつ「常識」は、自分一人の視点で見ている世界でしかないから。

問4 本文中の傍線部(2)「自分の認識から外れるような情報に接したとき」に、筆者はどのようにしたらよいと考えているか。最も適切なものを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 27

- ① その情報を無視することなく正しいものと認めるとよい。
- ② 自分が知っている情報がすべてではないと考えるとよい。
- ③ 今の世の中はこうあるべきという認識を修正するとよい。
- ④ ネット等で検索を行うことでその情報を精査するとよい。
- ⑤ 新聞記事や論文を読んでもっと深く知ろうとするとよい。

問5 本文中の傍線部(3)「フィールドワーク」と一言で言っても、いろいろなものがあります」とあるが、いろいろなフィールドワークの最大の共通点として最も適切なものを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 28

- ① 現場をよく観察すること。
- ② 遠くの現場に出かけること。
- ③ 様々な現場を訪ね歩くこと。
- ④ 現場の話をよく聞くこと。
- ⑤ 現場の情報に接すること。

問6 本文中の傍線部(4)「現場は、てごぼいでいます」の説明として最も適切なものを、
①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 29

- ① 現場で得られるデータは説明するのが難しいこと
- ② 現場で得られるデータは平準化されていないこと
- ③ 現場で得られるデータは具体的なものであること
- ④ 現場で得られるデータは普通のものではないこと
- ⑤ 現場で得られるデータは極端なものが多いこと

問7 本文中の空欄 X に該当する語句として最も適切なものを、①～⑧より1つ選び、
記号で答えなさい。 30

- ① たたきあう
- ② とつくみあう
- ③ ひびきあう
- ④ めぐりあう
- ⑤ きそいあう

問8 本文中の傍線部(5)「『学び』の場」で学べるものの説明として最も適切なものを、
①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 31

- ① 事前に参考にした文献とほぼ同じ文言となる結論を出す方法。
- ② 自分のフレームが壊されて再構築されることに対する快感。
- ③ 実際に現場に身を置いて調べることでしか得られない情報。
- ④ 知りたいことすべてを現場で知るは無理であるという認識。
- ⑤ 文献にあたるるとき表面的に読むだけでなく批判的に読む感覚。

問9 本文の内容と合致するものを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。

32

- ① 文献や資料に載っていることは、この世の現実を知るためにはほとんど役に立たないものである。
- ② 私たち一人ひとりが持っている無数の情報は、そのほとんどが他の人にとって無価値なものである。
- ③ フィールドワークをする前の時点で、知りたいことについて何らかの見解をもっていることが多い。
- ④ フィールドワークでは、事前に立てた綿密な調査計画に従って調査を進めていくのが重要である。
- ⑤ フィールドワークにはいろいろな調べ方があるため、一人ではなく複数人が集まって行うのがよい。

第2問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

33

45

この文章は、著作権上の都合により公開できません。

。

(出典：全卓樹著『銀河の片隅で科学夜話』朝日出版社)

問1 本文中へaくへcの傍線部に該当する漢字を含む熟語として正しいものを、①く⑤よりそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。 33く 35

へaく 33

① シュイロの鳥居が並ぶ

② 栄養をセツシュユする

③ シュミで絵を描く

④ シュショウな心がけだ

⑤ ジンシュのるつぼだ

へbく 34

① 値段がコウトウする

② 手紙をトウカンする

③ トウキでできたお皿

④ 研究にボットウする

⑤ トウカイする恐れがある

へcく 35

① ケンセイをふるう

② 足のケンサをする

③ ケンチク技術を学ぶ

④ ケンショウに当選した

⑤ ケンカの原因を聞く

問2 空欄へIくへIIくに入る語句として、最も適切なものを、①く⑤よりそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。 36 37

へIく

① 大手

② 逆手

③ 新手

④ 横手

⑤ 諸手

へIIく

① 大敵

② 大口

③ 大義

④ 大家

⑤ 大局

問3 傍線部(1)「技術的に言うとは、観測された曲の人気分布のジニ係数」とあるが、本文中の三つのジニ係数の値の違いについて説明したものととして、適切なものを、①～⑤より2つ選び、記号で答えなさい。

38

39

- ① ワッツ博士らは被験者を9グループに分け、第一グループのみ他の被験者の評価を表示せず、それ以外のグループは他の被験者の評価の集計を見ながら、自分の評価を下すように設定した。後者では、実験を2回に分け、1回目は曲をランダムに並べ、2回目は評価の大きい順に並べた。以上の実験よりジニ係数は、1回目より2回目の方が人気曲の偏りが小さくなり、また第一グループは他のグループに比べて偏りが大きくなることを示した。
- ② 全グループ共通の人気曲、不人気曲はあるものの、他の訪問者の評価が表示されないグループの場合、評価の分布はなだらかである。一方、他の訪問者の評価を見て評価するグループの場合は、特定の曲に評価が集中し、その際、曲がランダムに並べられるよりも、評価の高い順に並べられた場合の方が、人気曲とそれ以外の分極は大きい。これは人間がものごとを決めるときに他人の判断に頼り、対象の優劣が社会的に構成されることを示す。
- ③ 曲の評価をめぐり、他人の評価が示される場合、曲をランダムに並べた表に基づく実験と、評価のランク順に並べた表に基づく実験のいずれにおいても、突出した人気曲とそれ以外の曲への分極が顕著に表れ、後者ではそれが極端化している。それに対して、他人の評価を見ずに各人が独立に判断する場合、人気曲と不人気曲との分極はなだらかであった。これらの結果から、人間は物事を決める時に他人の判断に頼る傾向があることが分かる。
- ④ サイト内の曲に評価をつけていく実験において、他人の評価が表示されるグループでは、数曲の非常に突出した人気曲が残りの曲を凌駕する結果となり、曲間の評価の不等等さの度合いを示すジニ係数は低くなった。特に、人気順に並べられた表を見る2回目では、そうでない1回目よりもジニ係数の数値が低くなった。一方、他人の評価が見えないグループでは、評価分布はなだらかで、曲間の不等等さを表すジニ係数の数値は最も高かった。
- ⑤ 人間には、自ら判断しにくい事項については多数の他者の判断を参照してものを決める習性がある。試聴した楽曲についての評価の優劣を調査したワッツ博士の実験で、第一グループに突出した人気曲が現れなかったのは、他人の評価が表示され、自らの感性で判断を下さなかったからである。それに対し他のグループでは、他人の評価を見ることができず、2回目の実験では明確な評価順位が示されなかったため、評価に偏りが生じなかった。

問4 傍線部(2)「内的価値に基づかない人気曲」はなぜ生まれるのか、最も適切なものを、

①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 40

- ① パニユルジュの羊のように人間には他人の意見に同調しやすい付和雷同の心性が備わっており、音楽の曲の選好においてもそうした心理が働き、人々は自らの好みや楽曲自体の価値に基づき選ぶことで、多数の他者が高く評価する曲を価値あるものとみなし、それになびがちであるから。
- ② 曲自体に内在する魅力とは無関係に、初期段階で偶然高評価が重なった曲に、長い先史時代に人類が獲得した形質であろう、パニユルジュの羊の故事に示唆される自己の直観を信じて決める付和雷同の心性によって、一層高評価が集まった結果、大人気曲が作り上げられるから。
- ③ 楽曲の気は、必ずしも曲の創造者の才能や適性に起因する訳ではなく、楽曲公表の初期段階において才能という基盤により高評価が積み重なり、多くの人間がその評価にとりあえず同調していくという人間本来の習性に起因する社会的な構成物として生成していくものであるから。
- ④ 誰しもが認める名曲や駄曲であれば、個人の内的価値にもとづいて評価を下しやすが、自らでは判断しづらい中間的評価の多くの曲では他人の意見に同調しないという、人間に生来備わっている付和雷同の心理が助長されやすく、それが人気という群衆心理を生み出すことになるから。
- ⑤ リーダーと思しき羊が海に投げ込まれたのを契機に他の羊も周囲に呼応して海に飛び込んだパニユルジュの羊のように、初期段階で偶然高評価が重なった曲を、人々が自らの感性よりも人気があるという事実性に依拠して評価し、それが新たな評価を呼び込むという付和雷同が起きたから。

問5 空欄 X に入る語句として、最も適切なものを、①～⑤より1つ選び、記

号で答えなさい。 41

- ① 成功は才能と時の運
- ② 運頼みを止めてみよ
- ③ 成功は己の才能次第
- ④ 才能を味方につけよ
- ⑤ 成功と幸運は無関係

問6 傍線部(3)「ダークサイド」と表現されたのはなぜか、適切でないものを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 42

- ① 付和雷同という人間の信性の科学的実証を希求したが、私企業の営利追求や社会的な不正を手助けするというように、学問の現状がその本筋から著しく外れていると思われたから。
- ② 科学の実験成果が、社会制度の賢い設計などではなく、私企業の営利追求の手助けや世論操作などに応用され、学問の正道から外れた側に関わるもののように思われたから。
- ③ いかにも科学的に実証されたものでも、その成果が、科学者の社会貢献の意図とは別に、私企業の営利追求や世論操作などの道具として容易に使われてしまう恐れがあるから。
- ④ 人間は付和雷同という心性を習性として持つという科学的な実験結果が、人間を私企業による営利追求や政治家による世論操作の餌食におとしめるための道具にされているから。
- ⑤ 科学者たちによる社会現象の理論化や数値化は不確かな部分が多いにも関わらず、私企業の営利追求や世論操作のための人心操作に加担することになってしまっているから。

問7 本文中の四角枠内のA～Eを並べ替えて、最も適切な順序になるものを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 43

- ① A→E→C→B→D
- ② A→B→D→E→C
- ③ D→A→E→C→B
- ④ D→C→B→E→A
- ⑤ D→B→A→C→E

問8 傍線部(5)「餌食」と表現されている本文中の対象として、最も適切なものを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 44

- ① 科学者 ② 訪問者 ③ 消費者 ④ 智慧者 ⑤ 被験者

問9 次のア～ウのうち、本文の内容と合致するものの最も適切な組み合わせを、①～⑤より1つ選び、記号で答えなさい。 45

ア 「パニユルジュの羊」は、他人の行動に盲目的に従う性質を象徴している。このテーマで、ダンカン・ワッツは、参加者を「他人の評価が見えるグループ」と「見えないグループ」に分け、音楽の評価を調査する研究をおこなった。

イ 偶然高評価が集中した曲が、その後の評価を連鎖的に集める現象は、音楽業界でヒット曲の予測が困難とされる理由の一端でもあり、極端な人気や名声の集中は人間の社会的心理が生み出す構造的な偏りである可能性が示唆されている。

ウ 人間の「付和雷同」による問題は、過去の環境に適応した心身が現代に不適応を起す点という点で、肥満の蔓延と類似した現象である。こうした不都合を正すには正確な理解と、科学的な数値に基づいた社会制度の設計が必要である。

- ① アのみ ② アとイ ③ イのみ ④ イとウ ⑤ ウのみ

<言語聴覚学科> 後期 正答と解説

英語

第1問

(1) ③

訳：空腹やら寒さやらで、自分が惨めに感じた。

解説：What with A and (what with) B = 「A やら B やらで」

②では What by A and B で「A や B を用いて」となるため、文意に合わない。

(2) ①

訳：悪質な本は我々に害をなすことを知っておくべきだ。

解説：do A harm = 「A に害をなす」

harm を第二目的語とする動詞としては、他に cause も用いられる。

(3) ③

訳：彼女は自由な時間のほとんどを、スマートフォンを使って過ごす。

解説：most of A = 「A のほとんど」

直後に代名詞 her があるので、①②は使えない。

④⑤の almost を使用する場合は、using の直前に単独で入れるのが妥当であり、almost of といった表現は使われない。

(4) ④

訳：もし招待されていたなら彼女は出席しただろうに。

解説：仮定法過去完了の文だが、倒置により if が省略されている。

文中に過去分詞 been がある時点で、have(had)の省略は検討が付きやすい。

(5) ⑤

訳：誰でも欲しい人にこれらの服をあげよう。

解説：wants them の主語は人であるはずだが、文中にも選択肢にも先行詞が存在しないため、whoever のみが主語として適切となる。

また、give する相手として前置詞 to を用いている。

(6) ②

訳：まもなくその塔が視界に入ってきた。

解説：It was not long before ~ = 「まもなく～」

なお、①の until は、It was not until ~ that ... = 「～して初めて…した」という強調構文で使われる語である。

第2問A

(1) ③

解説：strong performance = 「好調」

performance を「実績」という意味で扱う場合は可算名詞になる。不可算名詞では「性能」や「実行」の意味になるので、②の much は文脈上不適切となる。

(2) ②

解説：問題解決のための「カギ」「手掛かり」であることは文意からわかる。

あるいは出典のタイトルの“Key”から推測することもできる。

①「単語」、③「目標」、④「心配」、⑤「証明」は、いずれも不適。

(3) ①

解説：1%未満に過ぎない旅行者なのに10%以上の額を消費している、という文意なので、逆接の従属接続詞 Although が適切となる。

②However は前の文からの逆接となってしまうため、不適。

(4) ④

解説：also とあるので、前段落から内容を引き継いでいることがわかる。前段落の中に necessary という語があるので、それと同等の④「不可欠な」が適切となる。

①「困難な」、②「自然な」、③「可能である」、⑤「責任がある」は、いずれも不適。

第2問B

答 ①

解説：関係代名詞 which が指す直前のもの(単数)、または文が「(現在)影響力が大きい」となっている。それに当てはまる箇所としては **I** のみが該当する。

第2問C

答 ②

解説：①第1段落の記述に合致する。

②誤り。本文では2019年における6か国の数値を例示しているだけである。参考までに、実際の高付加価値旅行者の国籍(地域含む)は既に35を数えている。

③第3段落の記述に合致する。

④第4段落の記述に合致する。

⑤第4段落の記述に合致する。resilient (レジリエント) は、逆境や困難に対して「柔軟で弾力的」「回復力がある」という意味である。

(全文訳)

2024年の訪日客数は3687万人で、2019年の3188万人を500万人近く上回る。観光客の消費額も、2019年の4.8兆円から8.1兆円に増加し、過去最高を記録した。明確に観光業が好調である一方で、人気の観光地のオーバーツーリズムや、地方における観光客数の伸び悩みなど、コロナウイルスの世界的流行以前からあった課題は深刻化している。

これらの問題はどのように解決できるのか。一つの糸口となるのが「高付加価値旅行者」という言葉である。高付加価値旅行者とは、訪日1回あたり100万円以上消費する旅行者を指す。

日本の観光庁によると、2019年にはオーストラリア、中国、フランス、ドイツ、英国、アメリカの6か国から28万7000人の高付加価値旅行者が日本を訪れ、5523億円を消費した。こうした高付加価値旅行者は訪日客全体の1%未満であるが、消費額の10%以上を占めており、大きな影響がある。高付加価値旅行者の旅行先や旅行目的を分析することで、消費額をさらに押し上げ、より多くの旅行者を地方に呼び寄せる方策を見極めることができるだろう。

(中略)

飲食、宿泊、文化体験など日本独自の観光サービスを充実させること、そして高付加価値旅行者の満足度と消費額を押し上げることが、多数の一般客を多数の浪費家へと変えていく上で必要となる。買い物によらない消費行動は、インバウンド消費を将来の円高に対してさらに弾力的なものにするだろう。

そして、観光収入を地域の観光資源の保護や育成、地域経済の活性化に活用して、地域住民を含む幅広い層がその恩恵を受けられるような仕組みを作ることも重要である。変化の波の中でも、地域のおもてなしを活用することで「日本らしさ」を際立たせる、強い観光を推し進める必要がある。

第3問A

(1) ④

解説：contribute 「与する」

ここでは「拡大に資する」の④が適切。

①「達成のための金を与える」 ②「何かが起こることを助ける」 ③「雑誌に寄稿する」 以上全て不適。

(2) ③

解説：talk 「議論」

①「会話」 ②「演説」 ④「言語」 以上全て不適。

(3) ②

解説：habit 「習慣」

①好み ③料理 ④悪癖 以上全て不適.

(4) ③

解説：sum up 「要約する」

ここでは「典型的な特徴を示す」の③が適切.

①「別の言葉で言う」 ②「すべて合計する」 ④「結論を導く」 以上全て不適.

なお, ①については a word と単数になっているため, 文意と合わない.

(5) ①

解説：challenge 「課題, 難題」

ここでは「我々が取り組むべき難しい課題」の①が適切.

②「人生の邪魔となる障害物」 ③「他人を上回るための競争」 ④「解くのが面白い難問」 以上全て不適. ④については enjoy が文意に合わない.

第3問B

(1) ③

解説：I については, 著者は個人的問題だけでなく社会的問題であると考えているので, 誤り.

II については, 多くのアメリカ人が太っていると考えているので, 正しい.

(2) ②

解説：I については, 「肥満税」は反対多数で成立しないと考えているので, 正しい.

II については, 「肥満税」の効果は疑わしいとしているので, 誤り.

(3) ①

解説：I については, 調味料のカロリーに大きな問題があるとしているので, 正しい.

II については, 多くのアメリカ人が日本に住めば痩せるだろうという内容なので, 正しい.

(全文訳)

「すべてのアメリカ人は太っている」という固定観念に与するつもりはない. というのも, 明らかにそれは事実ではないからである. しかし, 非常に多くのアメリカ人が過体重であり, 肥満が個人的問題だけでなく社会的問題になっているのは事実である.

統計によると、6割を超えるアメリカ人が過体重または肥満である。また、人の体重は個人的な問題であると主張する者もいるが、アメリカ国民は肥満の問題に対して医療費の上昇としてコストを支払っている。そのように、肥満は全てのアメリカ人の問題となっている。

「肥満税」の可能性についての議論までもある。肥満税は、エール大学の心理学の教授が提案したもので、主にポテトチップスやホットドッグといったジャンクフードのような、高脂肪の製品に課されるものである。健康リスクが高くても快樂のために消費されるタバコやアルコールに課される税と同様の「贅沢税」となる。この税には支持者もいるが、一般的な人はいわゆる「肥満警察」から食事の摂り方を指示されたくないため、実際に成立しそうにはないものである。

たとえ肥満税が成立したとしても、過体重の人口を減らせるかどうかは疑わしい。肥満が社会的問題だとしても、減量して健康的な食生活を実践することは明らかに個人の努力によるものであり、そしてそれはアメリカ人に限った話でもない。ただ、私自身は日米両方の文化で暮らしたことがあるが、一般的に言えば、健康を維持することについてはアメリカ人は日本人よりも苦労していると思う。

その主な理由は、日米における日常的な食生活の違いにある。問題の大部分は二語で要約できる。すなわち、バターとチーズ、である。この2つと、そして塩と胡椒は、伝統的なアメリカ料理で最もよく使われている調味料だ。例として、典型的なアメリカ料理の夕食を見てみよう。焼いた鶏肉、ベイクドポテト、蒸したブロッコリー、トスサラダ。私の家では、鶏肉を焼くのにバターを、ベイクドポテトにはバターとチーズを、ブロッコリーにはバターを、サラダには多分チーズを使う。アメリカ料理におけるバターとチーズは、日本料理における醤油と出汁のようなものだ。そしてそこに問題がある。アメリカの調味料は脂肪とカロリーに満ちている一方で、日本の調味料は実質的にカロリーがない。

(中略)

健康を維持することは皆が直面する課題であり、食事だけの問題ではない。しかし、アメリカ人は最初から、日常的な食生活があまり健康的ではないという、日本人にはない不利をかかえていると思う。もしアメリカ人全員が日本で数年間暮らす機会があるとしたら、肥満税について語る必要すらないだろう。

英語 正答表

問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点
第1問				第2問				第3問			
(1)	1	③	5	A				A			
(2)	2	①	5	(1)	7	③	6	(1)	13	④	4
(3)	3	③	5	(2)	8	②	6	(2)	14	③	4
(4)	4	④	5	(3)	9	①	6	(3)	15	②	4
(5)	5	⑤	5	(4)	10	④	6	(4)	16	③	4
(6)	6	②	5	B				(5)	17	①	4
小計			30		11	①	4	B			
				C				(1)	18	③	6
					12	②	4	(2)	19	②	6
				小計			32	(3)	20	①	6
										小計	38

国語

第1問

問1 21 ③ 22 ⑤ 23 ③

[解説]

<a> 21 頻繁

①煩雑 ②批判 ③繁茂 ④範囲 ⑤販路

 22 遠隔

①参画 ②適格 ③中核 ④革命 ⑤隔絶

<c> 23 余儀

①議論 ②犠牲 ③礼儀 ④技術 ⑤義理

問2 24 ③ 25 ④

[解説]

24の前文では文献・資料の有益さについて述べている一方で、後文では文献・資料の不足している部分について述べているので、逆接の接続詞「しかし」が適切。

25の前文ではフィールドワークについて具体的な説明をしており、後文ではフィールドワークを経験した場合について述べているので、話の転換を示す「ところで」が適切。

問3 ①

[解説]

傍線部の前の段落まで述べられているのは、文献や資料として書かれた情報は世の中の情報のうちごくわずかなものである、という内容である。

私たちの「常識」が、その書かれた情報や自分の周辺知識によるものであるとするならば、それは「この世の現実の一部」しか反映していないことになる。

②の「迷信や誤り」、③の「権威ある人」、④の「無自覚なまま」は本文に記述が無い。

⑤は、文献や資料によって他の人の視点を知ることができるため、不適切。

問4 ②

[解説]

新たな情報を無視するのではなく、まずは自分が持っている情報が不足していると考えることが大事、という内容である。

①は「正しいもの」とするのが誤り。正しいかどうかの判断はここでは行わない。③は「今の世の中」という限定した内容になっている点が誤り。④⑤は文献資料調査になるが、ここで述べられているのは文献資料だけでは不足しているという内容なので、不適切。

問5 ⑤

[解説]

フィールドワークは、現場の情報に接して調査を行うことであり、そこにはいろいろな調べかたがある。

①は「聞く」事例が欠けている。②は「遠く」と限定している点が誤り。③は「様々な」としている点が誤り。一箇所でも調べてもフィールドワークである。④は「観察する」事例が欠けている。

問6 ②

[解説]

現場で得られるデータは、文献に書かれているような「単純なことではない」、つまり全体のデータが一様に平準化されているわけではない、ということである。

①は言葉が足りない。「データ全体」をひとまとめにして説明するのが難しいのであり、個々のデータについては説明が難しいとは言えない。③は「でこぼこ」の説明になっていない。④は一様に「普通のものではない」とする点が不適切。⑤は極端なものが「多い」としている点が不適切。極端なデータも存在するであろうが、それが多いかどうかは不明である。

問7 ③

[解説]

弁証法的に「新しい解釈」を生み出せる「ひびきあう」が適切。

①②⑤では、どちらかの解釈が優勢になるだけであり、新しい解釈とはならない。④は「ぶつかりあい」の次に来る時点で順序が合わない。

問8 ⑤

[解説]

「学び」の場としての機能については、「論文や記事を読む際にも、メディアの情報に接する際にも、(中略)それらを批判的に読む素地、立体的に読む素地になります。フィールドワークには、認識を深化させる練習場としての機能がある」としている。

①は「学び」の目的ではない。②は「快感」としている点が誤り。③はフィールドワークの説明であり、ここでの「学び」には合致しない。④については、フィールドワークですべて知ることはできないが、しかしフィールドワーク感覚が身に付く、という本文の内容における「前置き」の内容である。

問9 ③

[解説]

- ① 文献や資料は「たいへん有益なもの」としている。
- ② 無数の情報のうちどれほど価値があるものがあるかについては述べられていない。
- ③ 正しい。本文ではそれを「フレーム」と呼んでいる。
- ④ 事前につくった調査事項を修正する必要がある，と述べられている。
- ⑤ 複数人で行うべきかどうかについては述べられていない。

第2問

問1 ④ ⑤ ①

[解説]

<a> 特殊

①朱色 ②撮取 ③趣味 ④殊勝 ⑤人種

 圧倒

①高騰 ②投函 ③陶器 ④没頭 ⑤倒壊

<c> 権威

①権勢 ②検査 ③建築 ④懸賞 ⑤喧嘩

問2 [I] ② [II] ④

[解説]

[I]

「逆手にとる」とは、不利な状況を逆に利用することや、相手の攻撃を利用して反撃することを意味する。空欄箇所の一文『パニユルジュならぬわれわれはむしろ、付和雷同心を [I] にとった賢い商人たちの宣伝にのって…』(②段落)において、「付和雷同心」を利用する側(=商人)の立場に注目し、本来は非合理で損につながるような性質(付和雷同)を、商人たちはそれをうまく活用(=逆手にとる)して、消費者の行動をコントロールして利益を得ている、ということになる。このように、「逆手」は、付和雷同の心を「利用されるもの(=損をする)」から「利用するもの(=得をする)」へと視点を転換するための言い回しとして用いられている。

[II]

「大家」とは、「その分野で特に高く評価されている人物」「権威ある専門家」を意味する。空欄箇所の直後に『ダンカン・ワッツ博士の有名な研究を見るのがよい。』とあるように、「他人の判断に依存する傾向(=付和雷同)」が社会にどう作用するかという問題は、信頼に足る、権威ある人物の研究を見るべきだ、そしてその代表例が「ダンカン・ワッツ博士」だという構成になっている。

問3 ②・③(順不同)

[解説]

数理的な実験とその結果の数値を正しく把握し、それを的確に捉えられているかを問う問題である。ジニ係数の値の違いの説明については、傍線部の次⑩段落の定義『ジニ係数というのは、すべての曲が同じ投票数ならば0、一曲だけに全投票が集まる場合に1となる、不平等さの度合いを測る統計量である。』を踏まえると、「1回目より2回目の方が人気曲の偏りが大きい/第一グループは他のグループに比べて偏りが小さい」ということに

なる。

また、「1回目と2回目」「第一グループと他のグループ」の違いは実験の内容から読み取れる。⑤段落によると、ワッツ博士らは、グループを9つに分け、第一のグループのみ他の訪問者(被験者)の評価を表示せず、それ以外のグループには他の訪問者(被験者)の評価の集計を見せて、自分の評価を下すように設定した。その上で、⑧段落によると、実験を2回に分け、1回目は曲をランダムに並べ、2回目は評価の大きい順に曲を並べた、とある。

その上で、

- ① 「1回目より2回目の方が人気曲の偏りが小さくなり、また第一グループは他のグループに比べて偏りが大きくなることを示した」が誤り。「大きく」と「小さく」が逆のため誤り。
- ② 正しい。
- ③ 正しい。
- ④ 「曲間の評価の不平等さの度合いを示すジニ係数は低くなった。特に、人気順に並べられた表を見る二回目では、そうでない一回目よりもジニ係数の数値が低くなった。一方、他人の評価が見えないグループでは、評価分布はなだらかで、曲間の不平等さを表すジニ係数の数値は最も高かった。」が誤り。「低くなった」と「高かった」が逆のため誤り。
- ⑤ 「…他人の評価が表示され、自らの感性で判断を下さなかったからである。それに対し他のグループでは、他人の評価を見ることができず、2回目の実験では明確な評価順位が示されなかったため、評価に偏りが生じなかった」が誤り。「…他人の評価が表示されず自らの感性で判断を下したからである。それに対し他のグループでは、他人の評価を見ることができ、2回目の実験では明確な評価順位が示されたため、評価に大きな偏りが生じた」が適切。

問4 ⑤

[解説]

『リーダーと思しき…羊を海に投げ込むや残りの羊もみな飛び込んで』の故事を踏まえて、ワッツ博士らの実験でどういう付和雷同が起こったのか、これについては傍線部の直後『初期段階である曲にたまたま高評点が重なって、雪だるま式に評価を上げて大人気曲へと成長する、というわけである。』(⑫段落)を参照する。

人は他人の判断に影響されやすく、これは心理的・社会的な傾向であり、いわば「付和雷同の心」によるものである。この傾向が強くと現れると、人々は「他人が評価しているから」という理由で、ある選択を支持するようになる。つまり、その選択(ここでは楽曲)が本来的に優れているかどうかではなく、「他人が選んだから」という事実そのものが、新たな支持を生むとしている。

その上で、

- ① 「人々は自らの好みや楽曲自体の価値に基づき選ぶことで」が誤り。「人々は自らの好みや楽曲自体の価値に基づくことなく」が適切。
- ② 「パニユルジュの羊の故事に示唆される自己の直観を信じてものを決める付和雷同の心性によって」が誤り。「他者の判断を参考にしてもものを決める」が適切。
- ③ 「楽曲公表の初期段階において才能という基盤により高評価が積み重なり」「初期段階において何らかの偶然による高評価が積み重なり」が適切。
- ④ 「他人の意見に同調しないという」が誤り。「他人の意見に同調するという」が適切。

問5 ①

〔解説〕

⑭段落において、現代社会の構造の観察がなされ、人気によって評価が決まる世界では、不平等な構造がある。このような構造は、才能や能力の違いによって自然に生まれるものだと思われがちであるが、ワッツ博士の実験結果によると、問4でも示されたように、「付和雷同」という人間の社会的性質によって、不平等な人気の分布が生まれることを示している。

つまり、個人の才能だけでなく、運やタイミング、そして群集心理といった外的・偶発的要因によって大きく左右される、という内容を一文で言い表した要約的結論である「成功は才能と時の運」が入る。

問6 ⑤

〔解説〕

傍線部は筆者の「家人」の発言にある。『科学的に行われた実験ってのは…そのままマーケティング(a)とか世論誘導(b)とか、いろいろ実用的な応用があるだろうし』という筆者の発言を受け、学問が科学の名の下に、営利企業のマーケティング(a)やアメリカ大統領選での世論操作(b)に利用されることを例に挙げ、「物理学者や数学者のダークサイドへの堕ち方もいろいろね」と答えた。

ここで「ダークサイド」というのは、私企業の営利追求(a)や社会的な不正への関与(b)に相当するものである。一方で、「家人」の中では聞き手である筆者と共有される(はずの)、一般的な意味での学問の「ライトサイド」＝正道が想定されているはずである。

「学問の正道に対し/aやbというように/学問の現状がその本筋から著しく外れていると思われたから」(A)、「家人」は「ダークサイド」という表現を用いていると推測される。この「正道」については、直接書いてなくても、「ダークサイド」を逆転させることで、検討をつけることができる。a・b要素から考えると、学問の正道は公共的な利益に寄与するものであったり、研究の実証から分かった数値や理論という学問の希求である。よって、「付和雷同という人間の信性の科学的実証を希求したが、私企業の営利追求や社会的な不

正を手助けするというように、学問の現状がその本筋から著しく外れていると思われたから。」と解答が導ける。

その上で、

- ⑤ 「科学者たちによる社会現象の理論化や数値化は不確かな部分が多いにも関わらず」が誤り。本文で不確かなこととは述べられていない。家人と筆者は話題の前提として、研究の意義はあるものとしている。一方で、それらが営利目的や世論操作に用いられていることに対して「ダークサイド」と表現している。

問7 ④

〔解説〕

以下が正しい順序の文章である。二重線箇所注目すると順を追いやすくなる。

- D 自らの判断がつきにくい事項について、多数の他者の判断を参考にしてもものを決める習性は、おそらくは長い先史時代に人類が獲得した形質なのだろう。
- C そこ(Dの「先史時代」を受けて)では狩りの獲物についても果実の豊富な茂みについても情報が乏しく、他者からの伝聞は貴重な判断材料であったはずだ。
- B また集団の素早い意思統一のためのメカニズムとして、付和雷同の心性はとても効率的である。
- E 競合する敵対的集団に囲まれた原始部族社会で、これ(Bの「付和雷同の心性」を受けて)は組織防衛上必要不可欠のものだったろう。
- A 人間に限らず広く動物界を見ても、多数の他者の判断に従う行動は、多くの場面で種の繁栄にとって有利だったに違いない。
- Aの後文「それ(Aの「多数の他者の判断に従う行動」を受けて)は8の字ダンスで方向を伝えて、瞬く間にコロニーの皆が良い餌場に殺到する、ハチたちの習性を見ても明らかである。」

よって、「④ D→C→B→E→A」が適切。

問8 ③

〔解説〕

傍線部の前から抜き出すと『人々が宣伝や世論操作のたやすい餌食となり』とあることから、ここでの「餌食」とはつまり、宣伝や世論操作によって操られ、損をしてしまう存在のことである。

①段落において、群衆心理による損失を象徴した「パニユルジュの羊たちみたいに」の故事を例に出し、現代の人々にもこのような「付和雷同の性質」があり、それが商人(=企業)の宣伝に利用されていると述べられている。

この②段落『賢い商人たちの宣伝にのって、日々細々と損をする消費者となったりする。』の一文にある「消費者」が「餌食」として例えられていた「損をする消費者」のことを指

しているため、「消費者」が正答となる。

問9 ②

〔解説〕

ウ 「科学的な数値に基づいた社会制度の設計が必要である」が誤り。「科学的な数値に基づいた社会制度」とは本文では述べられていない。

よって、「アとイ」が正答。

国語 正答表

問題番号	解答番号	正答	配点	問題番号	解答番号	正答	配点
第1問				第2問			
問1	21	③	3	問1	33	④	3
	22	⑤	3		34	⑤	3
	23	③	3		35	①	3
問2	24	③	3	問2	36	②	3
	25	④	3		37	④	3
問3	26	①	5	問3	38	②※	3
問4	27	②	5		39	③※	3
問5	28	⑤	5	問4	40	⑤	5
問6	29	②	5	問5	41	①	5
問7	30	③	5	問6	42	⑤	5
問8	31	⑤	5	問7	43	④	5
問9	32	③	5	問8	44	③	4
小計			50	問9	45	②	5
						小計	50

※順不同